



香川大学剣道部



剣

道は、その人の性格がとてもよく出る武道です。素直な人は剣も素直だといいますが、勝つためには「かけひき」などの人を見抜く力も求められるそうです。

「高段者の方に稽古をつけていただくのはもちろん、違う年代と練習することは私たちにとってとても刺激になるんです。中高生と練習すると、勢いと若さを感じます…(笑)」

「彼らは稽古が終わってもケロつとしてますからね！」

ユーモアを交えて語ってくれたのは、香川大学剣道部で主務・会計も務める藤井絵里子女子主将と、香川景一朗男子主将。

香川大学剣道部では、普通の稽古にくわえて月一回行われるOB参加ありの「合同練習」や毎週出かける県立武道館や機動隊での稽古など、学外の練習も定期的に行っています。

礼儀が自然と身につくのはもちろん、幅広い年代に接することで剣道の内容や性格も変わってきます。部をまとめる中で、「冷静さ」と「周囲が見えるようになる」という2つの変化を藤井主将は感じていました。

また「自ら考える」ことがより求められるのも、大学での特徴かもしれません。「練習は大体週6日、1時間〜1時間半と短時間集中。全体的なメニューは幹部が決めますが、あとは個人に任せ、それ

それでしっかり考えるようにしています。香川大学の剣道部は、例年「全日本(学生剣道選手権大会)にあと一回勝てば出場できる」というギリギリのところにいるので、大会出場が一つの目標ですね」

と香川主将。今年は個人戦で2年の笹岡選手と好井選手が念願の全日本出場を果たし、大会に向けて練習に励んでいます。主将たちから見て2選手はどうですか、と尋ねると、「2人とも頑張っています」という答えが返ってきました。

「好井は運動神経が良くスピードがある。稽古でも一番声が出ているし、必死に取り組んでいるのが伝わってきます。笹岡は返し技や技術に独特のタイミングがあり、負けない剣道ができる選手ですね」

ほとんどの選手が、小学校や中・高校から剣道をやっていたという剣道好きなかただあって、練習はもう生活の一部。中には学業だけでなくバイトも両立させて頑張っている学生もいます。

「毎日忙しいですが、だからこそ休みの日がすごく嬉しいんですよ。先輩のように、自分もOBになっても機会があれば続けたいです」

と香川主将が言うと、「私も続けたいです。社会人が参加できる大会もありますからね」と藤井主将も頷きます。剣道を続けたいという2人の言葉に、剣道部員の充実した毎日がうかがえました。



香川大学吹奏楽団

KAGAWA UNIVERSITY WIND ORCHESTRA

街はステージ！
音楽で地域と
語らう



う

ちは大学内に夜9時までいつでも使える練習場があるんです。活動は週3回ですが、好きな人はもう「住んでるの?!」というくらい練習しています(笑)」

団員の音楽好きがうかがえるエピソードを教えてくださいました。団長の石橋尚さん。

1961年に創立された香川大学吹奏楽団は部員約80名の吹奏楽団で、定期演奏会だけでなく、街なかや学校、老人ホームでの演奏会など、地域での演奏も積極的に行っています。

今年4〜5回の演奏会が企画されていますが、中でも6月末に行われた「イオン高松ショッピングセンター」のサマーコンサートは初めての試み。街へ出て演奏活動をした、という団員の希望があり、学生からイオンへ企画を持ち込んだのだそう！

演奏会は全てが学生主導。団員はそれぞれ入団時に「部会」というグループに入り、ポスター・チケット、パンフレット、管理、演出、選曲、広報といったそれぞれの役割を担っています。「聴いてもらうためには、分かりやすいストーリー仕立てがいい?」「いや、途中から立ち寄っても楽しめるものを」「1時間は長い。5曲30分くらいはどうか?」といった話し合いの中で曲のイメージを絞り込み、何を演奏するかという話し合いもこの部会から始まるのです。

流行やアニメに詳しい団員が曲を提案し、教育学部の団員が演出で振り付けを

するなど、それぞれが出来ることをやって一つの演奏会を作り上げていくのは、大変だけれどやりがいのあること。担当するパートメンバーでの旅行や「学年会」などのイベントも織り交ぜて絆を深めつつ、全員で一つの完成形を目指します。

「しっかり演奏すること、視覚的に考えること。この両面から盛り上げていきます。高校生の時は先生の指導のもと、練習だけしていれば良い」という面もありましたが、大学では「どこで演奏するの?」というところから学生が進めます。最初は慣れないことが多く「ただ演奏したいだけなのに...」という抵抗もありました。しかし思ったことが形になっていく面白さも段々分かってきますよ」

自分たちで作り上げた演奏会で、お客様の反応が見られると喜びもひとしおです。とくに街での演奏はお客様の顔が見えるという舞台とは違ったやりがいがあり、団員も楽しみにしているとか。

ちなみに楽団の今年の目標は、皆で1つもの完成させよう!という思いから「みんなで笑おう!」。

「一番大事にしたいのは日常。本番は瞬間であり、そこに至るまでの練習が大事です。本番だけよければいい、というのではなく、練習や部会で頑張ってきた人が報われるように、そういう演奏会ができる楽団でありたいですね」